

Histological categorisation of the desmoplastic reaction is a predictor of patient prognosis in oesophageal squamous cell carcinoma

酒井, 陽玄

<https://hdl.handle.net/2324/6758949>

出版情報 : Kyushu University, 2022, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

(別紙様式2)

氏名	酒井 陽玄
論文名	Histological categorisation of the desmoplastic reaction is a predictor of patient prognosis in oesophageal squamous cell carcinoma
論文調査委員	主査 九州大学 教授 中原 剛士 副査 九州大学 教授 加藤 聖子 副査 九州大学 教授 馬場 英司

論文審査の結果の要旨

申請者らは、食道扁平上皮癌（OSCC）におけるDesmoplastic Reaction（DR：間質線維化反応）の組織学的分類の予後予測因子としての意義を評価することを目的とし、研究を行った。

食道癌根治手術を受けたOSCC患者のうち、深達度T2以深の118名を対象とし、keloid-like collagenおよびmyxoid stromaの所見の有無により、Mature DRの49例、intermediate DRの41例、immature DRの28例に分類したところ、5年全生存率は、mature DR群で最も高く、intermediate DR群、immature DR群と続く結果であった。5年疾患特異的生存率も同様に、mature DR群で最も高く、intermediate DR群、immature DR群と続く結果であった。

申請者らは本論文により、食道扁平上皮癌の切除標本で観察される間質でのDR分類は有用な診断ツールであり、独立した予後予測因子であることを示した。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。なお本論文は共著者多数であるが、予備調査の結果、申請者が主導的役割を果たしていることを確認した。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士（医学）の学位に値すると認める。